

# 四半期報告書

(第148期第2四半期)

自 平成25年7月1日

至 平成25年9月30日

日本板硝子株式会社

(E01121)

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第148期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長兼CEO 吉川 恵治
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03-5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 村本 厚史
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03-5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 村本 厚史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) ライツプランの内容	6
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(6) 大株主の状況	7
(7) 議決権の状況	8

#### 2 役員の状況

	8
--	---

### 第4 経理の状況

	9
--	---

#### 1 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	10
要約四半期連結損益計算書	10
要約四半期連結包括利益計算書	12
(2) 要約四半期連結貸借対照表	14
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	16
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 要約四半期連結財務諸表注記	18

#### 2 その他

	34
--	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

	34
--	----

[四半期レビュー報告書]

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第147期 第2四半期 連結累計期間	第148期 第2四半期 連結累計期間	第147期
会計期間	自 2012年 4月1日 至 2012年 9月30日	自 2013年 4月1日 至 2013年 9月30日	自 2012年 4月1日 至 2013年 3月31日
売上高 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	260,678 (129,457)	302,162 (151,472)	521,346
税引前四半期利益又は税引前利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△18,680 (△6,499)	△10,059 (△4,695)	△31,096
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益 (△は損失) (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△17,695 (△6,572)	△11,054 (△3,942)	△34,324
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)包括利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△40,470 (△7,649)	7,975 (△2,981)	△14,957
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	119,522	153,004	145,031
総資産額 (百万円)	797,447	895,482	885,436
親会社所有者帰属持分比率 (%)	15.0	17.1	16.4
親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり 四半期(当期)利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (円)	△19.61 (△7.28)	△12.25 (△4.37)	△38.04
親会社の所有者に帰属する希薄化後1株当たり 四半期(当期)利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (円)	△19.61 (△7.28)	△12.25 (△4.37)	△38.04
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△2,617	1,770	14,213
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△14,914	△5,008	△7,041
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	34,742	△12,878	27,945
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	40,647	53,507	65,173

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
4. IAS第19号「従業員給付」の改訂の適用に伴い、第147期第2四半期連結累計期間、第147期第2四半期連結会計期間並びに第147期については、当該改訂の適用を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当社グループが前事業年度の有価証券報告書で開示した事業等のリスクの分析につきましては、当第2四半期連結累計期間においても引き続き有効なものと考えております。当第2四半期連結累計期間において、その規模と性質上、当社グループの事業等のリスクの状況に重要な影響を及ぼすと考えられるような事象は、発生しませんでした。

また、当社グループが将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、当第2四半期連結累計期間においては存在していません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。全ての財務数値は、国際会計基準（IFRS）ベースで記載しております。

#### （1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの主要な建築用ガラス市場及び自動車用ガラス市場の市況は、概ね想定通りの水準で推移しました。前年度において回復の兆しを見せていた市場が引き続き改善傾向を示すなか、当社グループにとって重要な欧州の市場はようやく落ち着きを見せているものの、低調に推移しました。高機能ガラス市場の市況は、分野によって改善又は下降の傾向を示しており、違いが見られました。

営業損益は、固定費の削減と設備稼働率の向上により、主として欧州において前年同期と比較して大幅に改善しました。個別開示項目及びビルキントン買収に係る償却費控除前営業利益は、前年同期の23億円から92億円に増加し、親会社の所有者に帰属する四半期損失は、前年同期の177億円から111億円へ減少しました。

なお、当第2四半期末の剰余金の配当（中間配当）につきましては、誠に遺憾ではありますが、2013年5月16日に開示しました配当予想の通り、実施を見送ることとさせていただきます。

当社グループの事業は、建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業、高機能ガラス事業の3種類のコア製品分野からなっています。

「建築用ガラス事業」は、建築材料市場向けの板ガラス製品及び内装外装用加工ガラス製品の製造・販売からなっており、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高のうち40%を占めています。ソーラー・エネルギー（太陽電池用ガラス）事業も、ここに含まれます。

「自動車用ガラス事業」は、新車組立用及び補修用市場向けに種々のガラス製品を製造・販売しており、当社グループの売上高のうち50%を占めています。

「高機能ガラス事業」は、当社グループの売上高のうち10%を占めており、小型ディスプレイ用の薄板ガラス、プリンター向けレンズ及び光ガイドの製造・販売、及び電池用セパレータやエンジン用タイミングベルト部材などのガラス繊維製品の製造・販売など、様々な事業からなっています。

セグメント別の業績概要は下表の通りです。

（単位：百万円）

	売上高		個別開示項目前営業利益 (△は損失)	
	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
建築用ガラス事業	119,519	108,139	4,414	△2,617
自動車用ガラス事業	152,085	121,057	4,637	2,677
高機能ガラス事業	30,128	30,812	2,959	3,238
その他	430	670	△7,061	△4,330
合計	302,162	260,678	4,949	△1,032

### ①建築用ガラス事業

当第2四半期連結累計期間における建築用ガラス事業の業績は、主にリストラクチャリング施策の効果により、前年同期と比較して大幅に改善しました。売上高は、円安による為替換算の影響により増加しました。

欧州における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の39%を占めています。厳しい経済環境が引き続き建設活動やリフォーム需要に影響を及ぼしました。建築用ガラス市場では、数量は当年度に入り安定的に推移しましたが、依然として歴史的な低水準となっています。当第2四半期までの一般品の平均販売価格は、前年度と同様の水準となりました。営業損益は、リストラクチャリング施策の効果により、当第2四半期において黒字に転じました。2013年11月7日付けで、当社グループは英国セントヘレンズのコーリーヒル事業所所在のフロートラインを休止することを公表しました。これにより、当社グループの欧州における建築用ガラス事業の設備稼働率の更なる向上が見込まれます。

日本における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の30%を占めています。新規住宅着工件数が前年度より更に増加しており、建築用ガラス市場の見通しは引き続き改善しています。しかしながら、労働力の不足によって建設工事に遅れが出る結果、建築用ガラスの需要に悪影響が及んでおり、ガラス製品の需要の増加に結びつくまでには、もう少し時間を要することが見込まれています。売上高は、前年同期と比較してわずかに上回り、営業損失は当第2四半期において損益が改善しているものの、前年同期と同様の水準で推移しました。

北米における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の10%を占めています。主に民間の住宅着工件数の増加により、建築用ガラス市場は引き続き改善しました。売上高と営業利益は、前年同期と比較して改善しました。力強い国内需要が太陽電池用ガラスの出荷の減少による影響を相殺したことにより、数量は前年度並みの水準で推移しました。価格は前年度の水準を上回りました。

その他の地域では、売上高と営業利益は前年同期と比較して増加しました。南米と東南アジアの市場環境は、需要の増加によって改善しています。

以上より、建築用ガラス事業では、売上高は1,195億円、個別開示項目前営業利益は44億円となりました。

### ②自動車用ガラス事業

自動車用ガラス事業の売上高は、主として円安による為替換算の影響により、前年同期と比較して増加しています。市場環境は引き続き厳しく、特に欧州の市場において顕著となっています。

欧州における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の46%を占めています。新車向け(OE)市場では、非常に厳しい状況が続いています。EU域内における乗用車販売台数は、現在は需要が落ち着いたと考えられるものの、過去20年間で最低の水準となっています。OE部門の売上高は、現地通貨ベースでは前年同期と比較してわずかに増加しました。営業利益は、主にリストラクチャリング施策の実施に伴うコスト削減効果により、改善しました。補修用(AGR)部門の業績も、需要の増加によって改善しました。

日本における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の16%を占めています。円安が自動車の輸出を下支えする状況が続いており、OE部門の数量が前年度より増加しました。売上高と営業利益は、前年同期より増加しました。AGR市場は、安定していました。

北米における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の24%を占めています。OE市場は、乗用車販売台数が前年度と比べて5%増加しており、改善しました。AGR部門の業績は、前年同期並みとなりました。

その他の地域では、南米と東南アジアにおける乗用車需要の増加により、売上高が前年同期と比較して増加しました。

以上より、自動車用ガラス事業では、売上高は1,521億円、個別開示項目前営業利益は46億円となりました。

### ③高機能ガラス事業

高機能ガラス事業の売上高は、前年同期並みとなりました。営業利益は前年同期よりわずかに減少しましたが、なお高い利益率を維持しています。

ディスプレイ用の薄板ガラスの売上高は、当年度上期の前半において液晶ディスプレイモジュールの生産会社を売却した影響もあり、減少しました。スマートフォンやタブレットPC向けの薄板ガラスの売上高は、増加しました。多機能プリンター向け部材の需要は当第2四半期においても引き続き増加しています。エンジン・タイミングベルト用ガラスコードの数量は、当社の製品が組み込まれた比較的小型で燃焼効率が高いエンジンを搭載した乗用車の需要が増加しているため、改善しました。

以上より、高機能ガラス事業では、売上高は301億円、個別開示項目前営業利益は30億円となりました。

#### ④その他

この分野には、全社費用、連結調整、前述の各セグメントに含まれない小規模な事業、並びにピルキントン社買収に伴い認識された無形資産の償却費が含まれています。その他における営業損失は、前年同期と比較して増加しています。これは、前年度において発生した一過性の収益が、当年度において発生しなかったことによるものです。

以上より、その他では、売上高は4億円、個別開示項目前営業損失は71億円となりました。

#### ⑤持分法適用会社

持分法による投資利益は、前年同期と比較して増加しました。当社グループのブラジルにおけるジョイント・ベンチャーであるCebra社の利益は、需要の増加により改善しましたが、コロンビアの関連会社で発生した開業前費用により、一部相殺される結果となりました。中国の建築用ガラスのジョイント・ベンチャーや関連会社の損益は前年同期と比較して改善しています。また、ロシアのジョイント・ベンチャーの業績は、前年同期の水準を下回っています。

以上より、持分法による投資利益は4億円（前年同期は2億円）となりました。

参考までに、所在地別の業績は以下の通りです。

欧州は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、円安に伴う為替換算の影響により、前年同期より238億円増加し、1,204億円となりました。個別開示項目前営業損益は、主にリストラクチャリング施策によるコスト削減効果により、前年同期に比べて50億円改善し、7億円の損失となりました。

日本は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、前年同期に比べて24億円減少し、756億円となりました。また、個別開示項目前営業利益は前年同期に比べて1億円減少し、25億円となりました。高機能ガラス事業が厳しい市場環境の影響を受ける一方、自動車用ガラス事業の営業利益は前年同期に比べて改善しました。

北米では、当第2四半期連結累計期間の売上高が、欧州と同様に円安に伴う為替換算の影響を受け、更に域内需要の改善により、前年同期に比べて112億円増加し、487億円となりました。個別開示項目前営業損益は、主に域内需要の増加とリストラクチャリング施策によるコスト削減効果により、前年同期に比べて3億円改善し、3億円の利益となりました。

その他の地域は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、前年同期に比べて89億円増加し、574億円となりました。個別開示項目前営業利益は、主に南米と東南アジアの建築用ガラス市場及び自動車用ガラス市場における需要の増加により、前年同期に比べて7億円増加し、28億円となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当社グループでは、フリー・キャッシュ・フローを安定的に生み出すことが、短期的な有利子負債の削減につながるだけでなく、長期的にも収益性の高い成長分野に投資する機会をもたらすと考えており、グループの重要課題であると認識しております。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは18億円のプラスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは50億円のマイナスでしたが、この中には有形固定資産の購入支出92億円が含まれています。以上より、フリー・キャッシュ・フローは、32億円のマイナスとなりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの主要な市場では、依然として厳しい状況が続いています。当社グループは、当年度下期において、欧州の市場は引き続き低調で推移するものの、数量がこれ以上大きく減少することは想定していません。また、欧州の建築用ガラス市場における価格は、前年度では歴史的に低い水準となりましたが、これ以上の価格の下落はないものと考えております。価格を取り巻く環境は、業界全体にわたる生産能力削減に下支えされ、これが設備稼働率の向上につながるものと見込んでいます。日本の市場は、円安や政府の成長戦略がもたらす景況の改善を享受するものと想定しています。また、日系自動車メーカーの海外輸出の増加に伴って、自動車用ガラスの数量が増えることと見込んでいます。北米における数量は前年度で見られた改善が継続し、新興国・地域の市場においても数量が増加することが見込まれます。ソーラー用ガラスの出荷数量は安定的に推移すると予想される一方、高機能ガラスの市場は前年度の水準を下回るものと見込んでいます。

当社グループは、既存の融資枠を期限前にリファイナンスするため、金融機関との間で新たな融資枠について協議を継続しております。当年度に期限を迎える融資枠については、リファイナンスを完了しました。

今後、当社グループは、これまで実施してきたリストラクチャリング施策及び生産性改善施策による効果を更に享受することになります。当社グループでは、リストラクチャリング施策による効果が2015年3月期以降、コーリーヒルのフロートラインの休止によって生じる効果を含めて、年間約330億円に増加すると想定しています。また、リストラクチャリング費用の総額は320億円、非キャッシュ費用である減損損失は100億円になるものと見込んでおります。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は40億円となりました。事業部門別の内訳は、建築用ガラス事業部門にて13億円、自動車用ガラス事業部門にて14億円、高機能ガラス事業部門にて6億円、その他において7億円となっております。

(5) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが保有する主要な設備について重要な異動はありません。

当第2四半期連結会計期間において、前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について重要な変更はありません。

また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

2013年9月末時点の総資産は8,955億円となり、2013年3月末より100億円増加しました。

当社グループの資本の源泉としては、事業活動からの営業キャッシュ・フロー、銀行からの借入金、社債、ファイナンス・リース契約、又は資本が挙げられます。2013年9月末現在、当社グループの総借入残高の構成割合は、銀行からの借入金が約85%、社債が約14%、ファイナンス・リース契約が約1%となっております。

当社グループは、最適な調達方法と調達期間の組み合わせにより、適切なコストで安定的に資金を確保することを、資金調達の基本方針としております。

2013年9月末時点のネット借入残高は、2013年3月末より143億円増加し、3,752億円となりました。このネット借入残高の増加は、円安による為替換算の影響や当第2四半期連結累計期間における全般的に低調な損益状況によるものです。為替変動により、ネット借入は約86億円増加しました。2013年9月末時点の総借入残高は、4,469億円となっております。

2013年9月末時点で、当社グループは未使用の融資枠を496億円保有しております。また、2013年3月に契約を締結した借入金の内、未実行残が290億円あり、今後当年度中に満期を迎える有利子負債の返済に充当する予定となっております。

2013年9月末時点における資本合計は、円安による為替換算の影響が四半期損失を上回ったため、2013年3月末より80億円増加し、1,634億円となりました。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営の基本方針は、「オープンでフェア」「企業倫理の遵守」「地球環境問題への貢献」を基本姿勢とし、「先進性があり、かつグローバルで存在感のある企業」と同時に「すべてのステークホルダーにとってのグループ企業価値の向上」を目指しております。

グループ・ビジョンは、「ガラス技術で世界に変革を」です。

グループ・ミッションは、「革新的な高性能ガラス製品の分野でグローバルリーダーとなることを目指すと共に、省エネ・創エネに貢献し、安全で倫理的な事業活動を行う」ことです。

このグループ・ビジョン並びにミッションが、当社グループの戦略の土台となります。

2008年のリーマン・ショック以降、当社グループの主要な市場は、厳しい経済状況の影響を受けております。ここ数年、当社グループの欧州市場は、政府と民間における債務の増加により、長期にわたって低成長又はマイナス成長となっており、市況がかなり悪化しております。このような状況の中、当社グループは、まずは収益性の回復に注力し、これを実現した後に引き続き、更なる大きな利益成長に向けて取り組んでまいります。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,775,000,000
計	1,775,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2013年9月30日)	提出日現在発行数(株) (注1) (2013年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	903,550,999	903,550,999	東京証券取引所第一部	単元株式数 1,000株(注2)
計	903,550,999	903,550,999	—	—

(注) 1. 提出日現在の発行数には、2013年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2. 完全議決権株式であり、権利内容に特に限定のない当社における標準となる株式であります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2013年7月1日～ 2013年9月30日	—	903,550,999	—	116,449	—	124,772

## (6) 【大株主の状況】

2013年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	27,878	3.08
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	22,903	2.53
CREDIT SUISSE SECURITIES (EUROPE) LIMITED PB OMNIBUS CLIENT ACCOUNT (常任代理人 クレディ・スイス証券 株式会社)	ONE CABOT SQUARE LONDON E14 4QJ  (東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー)	17,336	1.91
野村信託銀行株式会社 (投信口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	14,203	1.57
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA  (東京都品川区東品川2丁目3番14号)	12,492	1.38
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44 (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	P.O. BOX 1631 BOSTON, MASSACHUSETTS 02105-1631 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	11,077	1.22
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	9,610	1.06
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目18-24	9,148	1.01
RAIFFEISEN BANK INTERNATIONAL AG CLIENT A/C (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	AM STADTPARK 9, A-1030 VIENNA, AUSTRIA (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	8,651	0.95
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス 証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB, UK (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	8,502	0.94
計	—	141,802	15.69

(注) 1. 信託銀行各社の持ち株数には、信託業務に係る株式数が含まれております。

2. 三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者2社から、2013年9月5日付けで、株券等の大量保有に関する変更報告書が関東財務局長に提出されており、2013年8月30日現在でそれぞれ以下の株券等を保有している旨の報告を受けましたが、当社として2013年9月30日現在の各社の実質所有株式数の確認ができません。なお、当該報告書の内容は以下の通りであります。

氏名又は名称	所有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	26,872	2.97
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	1,520	0.17
日興アセットマネジメント株式会社	8,302	0.92
計	36,694	4.06

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(2013年9月30日現在)

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 969,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 899,689,000	899,689	—
単元未満株式	普通株式 2,892,999	—	—
発行済株式総数	903,550,999	—	—
総株主の議決権	—	899,689	—

② 【自己株式等】

(2013年9月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有 株式数の割合 (%)
日本板硝子㈱	東京都港区三田 三丁目5番27号	969,000	—	969,000	0.10
計	—	969,000	—	969,000	0.10

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（2013年7月1日から2013年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
売上高	(5) (e)	302,162	260,678
売上原価		△231,190	△203,847
売上総利益		70,972	56,831
その他の収益		3,212	2,928
販売費		△29,159	△24,485
管理費		△31,903	△29,350
その他の費用		△8,173	△6,956
個別開示項目前営業利益 (△は損失)	(5) (e)	4,949	△1,032
個別開示項目	(5) (f)	△6,050	△10,075
営業損失	(5) (e)	△1,101	△11,107
金融収益	(5) (g)	1,508	904
金融費用	(5) (g)	△10,848	△8,677
持分法による投資利益		382	200
税引前四半期損失		△10,059	△18,680
法人所得税	(5) (h)	△471	1,364
四半期損失		△10,530	△17,316
非支配持分に帰属する四半期利益		524	379
親会社の所有者に帰属する四半期損失		△11,054	△17,695
		△10,530	△17,316
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益	(5) (i)		
基本的1株当たり四半期損失 (円)		△12.25	△19.61
希薄化後1株当たり四半期損失 (円)		△12.25	△19.61

(単位：百万円)

	注記	当第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自 2012年7月1日 至 2012年9月30日)
売上高	(5) (e)	151,472	129,457
売上原価		△114,309	△100,837
売上総利益		37,163	28,620
その他の収益		819	1,001
販売費		△14,957	△12,535
管理費		△15,345	△13,506
その他の費用		△4,724	△3,551
個別開示項目前営業利益	(5) (e)	2,956	29
個別開示項目	(5) (f)	△3,659	△2,627
営業損失	(5) (e)	△703	△2,598
金融収益	(5) (g)	748	420
金融費用	(5) (g)	△5,097	△4,624
持分法による投資利益		357	303
税引前四半期損失		△4,695	△6,499
法人所得税	(5) (h)	1,046	165
四半期損失		△3,649	△6,334
非支配持分に帰属する四半期利益		293	238
親会社の所有者に帰属する四半期損失		△3,942	△6,572
		△3,649	△6,334
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益	(5) (i)		
基本的1株当たり四半期損失(円)		△4.37	△7.28
希薄化後1株当たり四半期損失(円)		△4.37	△7.28

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
四半期損失	△10,530	△17,316
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられない項目		
退職給付引当金の再測定 (法人所得税控除後)	△133	—
純損益に振り替えられない項目合計	△133	—
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	19,966	△22,691
売却可能金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	△247	△3
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動 (法人所得税控除後)	△784	△577
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	18,935	△23,271
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)	18,802	△23,271
四半期包括利益合計	8,272	△40,587
非支配持分に帰属する四半期包括利益	297	△117
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益	7,975	△40,470
	8,272	△40,587

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自 2012年7月1日 至 2012年9月30日)
四半期損失	△3,649	△6,334
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられない項目	—	—
純損益に振り替えられない項目合計	—	—
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	1,175	△2,671
売却可能金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	△207	126
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動 (法人所得税控除後)	△386	1,436
その他	—	10
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	582	△1,099
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)	582	△1,099
四半期包括利益合計	△3,067	△7,433
非支配持分に帰属する四半期包括利益	△86	216
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益	△2,981	△7,649
	△3,067	△7,433



## (2) 【要約四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2013年9月30日)	前連結会計年度末 (2013年3月31日)
<b>資産</b>		
非流動資産		
のれん	127,351	116,768
無形資産	86,148	84,496
有形固定資産	275,874	267,983
投資不動産	691	635
持分法で会計処理される投資	47,000	45,063
売上債権及びその他の債権	15,747	16,514
売却可能金融資産	7,067	6,742
デリバティブ金融資産	906	1,362
繰延税金資産	55,103	51,797
	<u>615,887</u>	<u>591,360</u>
流動資産		
棚卸資産	108,084	100,790
未成工事支出金	744	428
売上債権及びその他の債権	98,950	103,928
売却可能金融資産	3	652
デリバティブ金融資産	1,520	2,168
現金及び現金同等物	69,263	83,472
	<u>278,564</u>	<u>291,438</u>
売却目的で保有する資産	1,031	2,638
	<u>279,595</u>	<u>294,076</u>
資産合計	<u>895,482</u>	<u>885,436</u>
<b>負債及び資本</b>		
流動負債		
社債及び借入金	137,547	152,585
デリバティブ金融負債	1,854	1,744
仕入債務及びその他の債務	119,454	117,151
引当金	17,233	17,982
繰延収益	2,879	2,914
	<u>278,967</u>	<u>292,376</u>
売却目的で保有する資産に 直接関連する負債	202	666
	<u>279,169</u>	<u>293,042</u>

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2013年9月30日)	前連結会計年度末 (2013年3月31日)
非流動負債		
社債及び借入金	305,527	291,793
デリバティブ金融負債	1,943	1,727
仕入債務及びその他の債務	700	2,344
繰延税金負債	23,849	23,641
退職給付引当金	94,230	89,760
引当金	17,057	18,620
繰延収益	9,562	9,056
	<u>452,868</u>	<u>436,941</u>
負債合計	<u>732,037</u>	<u>729,983</u>
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	116,449	116,449
資本剰余金	127,514	127,511
利益剰余金	△22,462	△11,275
利益剰余金 (IFRS移行時の累積換算差額)	△68,048	△68,048
その他の資本の構成要素	△449	△19,606
親会社の所有者に帰属する持分合計	<u>153,004</u>	<u>145,031</u>
非支配持分	10,441	10,422
資本合計	<u>163,445</u>	<u>155,453</u>
負債及び資本合計	<u>895,482</u>	<u>885,436</u>

## (3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金 (IFRS 移行時の 累積換算 差額)	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2013年4月1日残高	116,449	127,511	△11,275	△68,048	△19,606	145,031	10,422	155,453
四半期包括利益合計			△11,187		19,162	7,975	297	8,272
剰余金の配当						—	△278	△278
新株予約権の増減					△6	△6		△6
自己株式の取得及び処分		3			1	4		4
2013年9月30日残高	116,449	127,514	△22,462	△68,048	△449	153,004	10,441	163,445

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金 (IFRS 移行時の 累積換算 差額)	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2012年4月1日残高	116,449	127,511	30,793	△68,048	△45,392	161,313	9,222	170,535
四半期包括利益合計			△17,695		△22,775	△40,470	△117	△40,587
剰余金の配当			△1,354			△1,354	△414	△1,768
新株予約権の増減					16	16		16
自己株式の取得及び処分		5			12	17		17
2012年9月30日残高	116,449	127,516	11,744	△68,048	△68,139	119,522	8,691	128,213

## (4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
営業活動による現金生成額	(5) (1)	11,016	6,545
利息の支払額		△9,234	△6,908
利息の受取額		1,333	917
法人所得税の支払額		△1,345	△3,171
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,770	△2,617
投資活動によるキャッシュ・フロー			
持分法適用会社からの配当金受領額		57	446
ジョイント・ベンチャー及び関連 会社の取得による支出		△21	△112
子会社の取得による支出 (取得額の純額)		△6	△1,188
子会社の売却による収入 (売却額の純額)		1,230	—
有形固定資産の取得による支出		△9,221	△15,713
有形固定資産の売却による収入		1,966	1,690
無形資産の取得による支出		△650	△704
無形資産の売却による収入		—	30
売却可能金融資産の購入による支出		△3	△3
売却可能金融資産の売却による収入		795	33
貸付金の増減額		461	503
その他		384	104
投資活動によるキャッシュ・フロー		△5,008	△14,914
財務活動によるキャッシュ・フロー			
親会社の株主への配当金の支払額		△6	△1,352
非支配持分株主への配当金の支払額		△279	△418
社債償還及び借入金返済による支出		△76,462	△16,748
社債発行及び借入れによる収入		63,870	53,261
その他		△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー		△12,878	34,742
現金及び現金同等物の増減額		△16,116	17,211
現金及び現金同等物の期首残高	(5) (m)	65,173	24,797
現金及び現金同等物に係る換算差額		4,589	△1,361
売却目的で保有する資産への振替に 伴う現金及び現金同等物の増減額		△139	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	(5) (m)	53,507	40,647

(5) 【要約四半期連結財務諸表注記】

(a) 報告企業

当社及び連結子会社（以下、当社グループ）は、建築用及び自動車用ガラスの生産・販売における世界的なリーディング・カンパニーであると共に、様々なハイテク分野で活躍する高機能ガラス事業を展開しております。当社グループの親会社である日本板硝子株式会社は、日本に所在する企業であり、東京証券取引所にて株式を上場しております。当社の登記されている本社の住所は、東京都港区三田三丁目5番27号です。

(b) 作成の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に定める要件を満たしており、同条に定める特定会社に該当いたしません。

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、投資不動産、デリバティブ金融商品、売却可能金融商品を除き、取得原価を基礎として作成されております。

本要約四半期連結財務諸表は、2013年11月8日に当社代表執行役社長兼CEO吉川恵治及び当社最高財務責任者である代表執行役副社長兼CFOマーク・ライオンズによって承認されております。

要約四半期連結財務諸表の表示通貨は日本円であり、特に注釈の無い限り、百万円単位での四捨五入により表示しております。

(c) 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度（2013年3月期）に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

IAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」に従い、下記の会計基準の適用を受けて、主要な連結財務諸表等の比較情報について修正を行っております。

IAS第19号「従業員給付」は、2011年6月に改訂が公表されました。当社グループの退職後給付の会計処理では、従来は利息費用と期待運用収益が個別に算定されていましたが、IAS第19号の改訂により、該当地域毎に確定給付負債（資産）の純額に対して個別の割引率を適用して利息純額を算定する処理に変更されました。この改訂による、当社グループの退職給付引当金に対する重要な影響はないと考えております。すなわち、当連結会計年度末（2014年3月末）においては、当社グループは最新の数理計算の結果に基づき退職給付引当金の計上を行いますが、この改訂による金融費用の増加は、連結包括利益計算書において認識される損益の増減によって相殺されるものと考えております。一方、当連結会計年度の各四半期末日においては、当社グループは、グループ会計方針に基づき期首の確定給付負債（資産）の純額に重要な影響が生ずる場合に限り、数理計算上の仮定を更新したうえで退職給付引当金の再測定を行います。従って各四半期では、この改訂による金融費用の増加が連結包括利益計算書において認識される損益の増減によって相殺されず、結果的に資本の金額に影響を与える可能性があります。

当社グループは、IAS第19号の改訂を遡及適用しており、このため前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報を修正しております。前述のような四半期決算報告に関するグループ会計方針に従い、修正された前第2四半期連結累計期間（2013年3月期第2四半期）の連結損益計算書における金融費用の増加は、連結包括利益計算書における損益の増減によって相殺されません。しかし年度決算報告では、修正された前連結会計年度の連結損益計算書における金融費用の増加は連結包括利益計算書における損益の増減によって相殺されることになり、結果として前連結会計年度末（2013年3月末）の連結貸借対照表には影響は生じません。IAS第19号改訂の適用による影響の要約は、注記（5）(q)「前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報の修正」に記載しております。

IFRS第10号「連結財務諸表」は、連結財務諸表における子会社の連結の基礎として支配の概念を規定しています。この基準は、支配の有無を決定する際の追加的なガイダンスとなります。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありません。

IFRS第11号「共同支配の取決め」は、従来のIAS第31号「ジョイント・ベンチャーに対する持分」及びSIC第13号「共同支配企業—共同支配投資企業による非貨幣性資産の拠出」を置き換える基準です。この基準は、複数の当事者が共同支配を有する取決めの分類について規定しています。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありません。

IFRS第12号「他の企業への関与の開示」は、共同支配の取決め、関連会社、特別目的会社並びに他の非連結の事業体を含む、他の事業体に対するあらゆる形式の持分に関する開示要求を規定しています。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありません。

IFRS第13号「公正価値測定」は、公正価値を定義し、単一のIFRSで公正価値の測定に関するフレームワークを示し、開示要求を規定しています。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありませんが、四半期決算報告において開示が要求される事項については、注記（5）(n)「金融商品」に記載しております。

(d) 重要な会計上の見積り、判断及び仮定

当社グループは、将来に関する見積り及び仮定の設定を行っております。会計上の見積りの結果は、その定義上、関連する実際の結果と異なることがあります。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び仮定は、前連結会計年度（2013年3月期）に係る連結財務諸表と同様であります。

見積り及び判断は、継続的に評価され、過去の経験及び他の要因（状況により合理的だと認められる将来事象の発生見込みを含む）に基づいております。

(e) セグメント情報

当社グループはグローバルに事業活動を行っており、以下の報告セグメントを有しております。

建築用ガラス事業は、各種の商業向け及び住宅向けの建築用ガラスの製造及び販売をしております。このセグメントには、太陽電池用ガラス事業も含まれます。

自動車用ガラス事業は、新車向け及び補修向けに様々なガラスを製造販売しております。

高機能ガラス事業は、小型ディスプレイ用の超薄型ガラスの製造及び販売、プリンターレンズ及び光部品、鉛蓄電池用セパレータ及びエンジン用のグラスコード等の特殊ガラス繊維製品等の複数の事業によって構成されております。

その他の区分は、本社費用、連結調整並びに上記報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

当第2四半期連結累計期間（自 2013年4月1日 至 2013年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	119,519	152,085	30,128	430	302,162
セグメント間売上高	8,585	1,033	48	2,643	12,309
セグメント売上高計	128,104	153,118	30,176	3,073	314,471
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	4,414	4,637	2,959	△2,824	9,186
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△4,237	△4,237
個別開示項目前営業利益	4,414	4,637	2,959	△7,061	4,949
個別開示項目					△6,050
営業損失					△1,101
金融費用（純額）					△9,340
持分法による投資利益					382
税引前四半期損失					△10,059
法人所得税					△471
四半期損失					△10,530

前第2四半期連結累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	108,139	121,057	30,812	670	260,678
セグメント間売上高	6,245	328	89	2,525	9,187
セグメント売上高計	114,384	121,385	30,901	3,195	269,865
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益（△は損失）	△2,617	2,677	3,238	△975	2,323
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△3,355	△3,355
個別開示項目前営業利益（△は損失）	△2,617	2,677	3,238	△4,330	△1,032
個別開示項目					△10,075
営業損失					△11,107
金融費用（純額）					△7,773
持分法による投資利益					200
税引前四半期損失					△18,680
法人所得税					1,364
四半期損失					△17,316

当第2四半期連結会計期間（自 2013年7月1日 至 2013年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	61,864	74,429	14,973	206	151,472
セグメント間売上高	4,135	563	27	1,357	6,082
セグメント売上高計	65,999	74,992	15,000	1,563	157,554
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	4,092	1,767	943	△1,718	5,084
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△2,128	△2,128
個別開示項目前営業利益	4,092	1,767	943	△3,846	2,956
個別開示項目					△3,659
営業損失					△703
金融費用（純額）					△4,349
持分法による投資利益					357
税引前四半期損失					△4,695
法人所得税					1,046
四半期損失					△3,649

前第2四半期連結会計期間（自 2012年7月1日 至 2012年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	55,768	57,903	15,678	108	129,457
セグメント間売上高	2,944	203	42	1,238	4,427
セグメント売上高計	58,712	58,106	15,720	1,346	133,884
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	661	62	1,734	△785	1,672
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△1,643	△1,643
個別開示項目前営業利益	661	62	1,734	△2,428	29
個別開示項目					△2,627
営業損失					△2,598
金融費用（純額）					△4,204
持分法による投資利益					303
税引前四半期損失					△6,499
法人所得税					165
四半期損失					△6,334

当第2四半期連結累計期間（自 2013年4月1日 至 2013年9月30日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	160,177	170,870	44,706	4,682	380,435
資本的支出（無形資産含む）	1,408	5,407	4,593	264	11,672

前第2四半期連結累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年9月30日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	153,295	161,126	45,329	2,500	362,250
資本的支出（無形資産含む）	6,972	7,778	573	76	15,399

ネット・トレーディング・アセットは、有形固定資産、投資不動産、無形資産（企業結合に係るものを除く）、棚卸資産、未成工事支出金、売上債権及びその他の債権（金融債権を除く）、仕入債務及びその他の債務（金融債務を除く）によって構成されております。

資本的支出は有形固定資産及び無形資産の追加取得によるものです。



## (f) 個別開示項目

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
個別開示項目（収益）：		
売却可能金融資産の売却による利益	166	—
ジョイント・ベンチャーに対する 持分変動益	—	326
子会社の取得による収益	—	276
その他	63	60
	229	662
個別開示項目（費用）：		
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了にかかる費用を含む)	△4,727	△6,686
有形固定資産等の減損損失	△888	△3,815
係争案件の解決に係る費用	△291	△192
その他	△373	△44
	△6,279	△10,737
	△6,050	△10,075

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結会計期間 (自 2012年7月1日 至 2012年9月30日)
個別開示項目（収益）：		
売却可能金融資産の売却による利益	166	—
その他	1	60
	167	60
個別開示項目（費用）：		
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了にかかる費用を含む)	△2,428	△2,007
有形固定資産等の減損損失	△888	△513
係争案件の解決に係る費用	△195	△125
その他	△315	△42
	△3,826	△2,687
	△3,659	△2,627

当第2四半期連結累計期間における個別開示項目は以下の通りです。

売却可能金融資産の売却による利益は、日本における売却可能金融資産の売却により発生したものです。

リストラクチャリング費用（雇用契約の終了にかかる費用を含む）は、世界各地で発生した費用であり、この中には主として欧州において設備の休止状態を維持するに際して発生した費用も含まれます。

有形固定資産等の減損損失は、主として当社グループの英国・コーリーヒル及びスウェーデン・ハムスタッドの建築用ガラス設備に関するものです。

係争案件の解決にかかる費用は、欧州競争法違反の疑いにより欧州委員会が当社グループに対して過料を課する旨の決定を発表したことに続き、顧客である自動車メーカー数社によって行われた損害賠償請求に関して発生したものです。

前第2四半期連結累計期間における個別開示項目は以下の通りです。

ジョイント・ベンチャーに対する持分変動益は、当社グループのロシアにおけるジョイント・ベンチャーのリファイナンス（資本再編）に伴い発生したものであり、資本再編直前の1株当たり純資産簿価を上回る株式発行価格にて新規の投資家が同ジョイント・ベンチャーに対する出資を引き受けたことによるものです。

子会社の取得による収益は、Flovetro SpAの株式の取得に伴い発生したものです（注記（5）(p)「企業結合」参照）。

リストラクチャリング費用（雇用契約の終了にかかる費用を含む）は、以前公表した、当社グループのコスト削減計画に基づき、世界各地で発生した費用です。

有形固定資産等の減損損失は、主としてイタリア・ベニスの建築用ガラス設備に関するものです。

係争案件の解決にかかる費用は、前第2四半期連結累計期間において解決した係争案件に関して発生した費用です。

## (g) 金融収益及び費用

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
<b>金融収益</b>		
利息収入	1,370	782
為替差益	138	51
金融商品の公正価値の評価益：		
－金利スワップ	－	71
	<u>1,508</u>	<u>904</u>
<b>金融費用</b>		
社債及び借入金の支払利息	△8,550	△6,684
非支配持分に対する非持分金融商品である 優先株式の支払配当金	△136	△106
為替差損	△379	△171
	<u>△9,065</u>	<u>△6,961</u>
時間の経過により発生した割引の戻し	△188	△146
<b>退職給付費用</b>		
－純利息費用	△1,595	△1,570
	<u>△10,848</u>	<u>△8,677</u>

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自 2012年7月1日 至 2012年9月30日)
<b>金融収益</b>		
利息収入	684	373
為替差益	64	47
	<u>748</u>	<u>420</u>
<b>金融費用</b>		
社債及び借入金の支払利息	△4,031	△3,696
非支配持分に対する非持分金融商品である 優先株式の支払配当金	△69	△52
為替差損	△101	△15
	<u>△4,201</u>	<u>△3,763</u>
時間の経過により発生した割引の戻し	△92	△75
<b>退職給付費用</b>		
一純利息費用	△804	△786
	<u>△5,097</u>	<u>△4,624</u>

## (h) 法人所得税

当第2四半期連結累計期間における法人所得税の負担率は、持分法による投資利益考慮前の税引前四半期損失に対して△4.5%となっております（前第2四半期連結累計期間は持分法による投資利益考慮前の税引前四半期損失に対して7.2%）。

なお、当第2四半期連結累計期間の法人所得税は、2014年3月31日時点の実効税率を合理的に見積り算定しております。

(i) 1株当たり利益

(a) 基本

基本的1株当たり利益は、親会社の所有者に帰属する四半期利益を、当該四半期連結累計期間の発行済普通株式の加重平均株式数で除して算定しております。発行済普通株式の加重平均株式数には、当社グループが買入れて自己株式として保有している普通株式は含まれません。

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期損失 (百万円)	△11,054	△17,695
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	902,588	902,354
基本的1株当たり四半期損失 (円)	△12.25	△19.61

	当第2四半期 連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結会計期間 (自 2012年7月1日 至 2012年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期損失 (百万円)	△3,942	△6,572
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	902,586	902,358
基本的1株当たり四半期損失 (円)	△4.37	△7.28

## (b) 希薄化後

希薄化後1株当たり利益は、すべての希薄化効果のある潜在的普通株式が転換されたと仮定して、当期利益と発行済普通株式の加重平均株式を調整することにより算定されます。当社グループにはストック・オプションによる希薄化効果を有する潜在的普通株式が存在します。ストック・オプションについては、付与された未行使のストック・オプションの権利行使価額に基づき、公正価値（当社株式の当期の平均株価によって算定）で取得される株式数を算定するための計算が行われます。前述の方法で計算された株式数は、発行済普通株式の加重平均株式数に加算されます。

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
利益		
親会社の所有者に帰属する四半期損失（百万円）	△11,054	△17,695
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる損失（百万円）	△11,054	△17,695
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数（千株）	902,588	902,354
調整：		
- スtock・オプション（千株）	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる普通株式の加重平均株式数（千株）	902,588	902,354
希薄化後1株当たり四半期損失（円）	△12.25	△19.61

(注) 当第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結累計期間においては、ストック・オプションの転換が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有しておりません。

	当第2四半期 連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結会計期間 (自 2012年7月1日 至 2012年9月30日)
利益		
親会社の所有者に帰属する四半期損失（百万円）	△3,942	△6,572
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる損失（百万円）	△3,942	△6,572
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数（千株）	902,586	902,358
調整：		
- スtock・オプション（千株）	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる普通株式の加重平均株式数（千株）	902,586	902,358
希薄化後1株当たり四半期損失（円）	△4.37	△7.28

(注) 当第2四半期連結会計期間及び前第2四半期連結会計期間においては、ストック・オプションの転換が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有しておりません。

## (j) 配当金

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
普通株式にかかる配当金決議額		
期末配当金の総額	—	1,352
1株当たりの配当額		
当第2四半期連結累計期間	0円	
(前第2四半期連結累計期間)	1.5円)	

## (k) 為替レート

主要な通貨の為替レートは以下の通りです。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)		前連結会計年度 (自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)		前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	
	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート
英ポンド	153	158	131	141	126	126
米ドル	99	98	83	93	80	78
ユーロ	131	132	107	119	101	100

## (1) 営業活動によるキャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
四半期損失	△10,530	△17,316
調整項目：		
法人所得税	471	△1,364
減価償却費（有形固定資産）	15,099	12,835
償却費（無形資産）	5,456	4,632
減損損失	912	3,925
有形固定資産除売却損益	△153	△567
子会社の売却損益	56	—
繰延収益の増減	△552	665
金融収益	△1,508	△904
金融費用	10,848	8,677
持分法による投資利益	△382	△200
その他	△179	△1,199
引当金及び運転資本の増減考慮前の 営業活動によるキャッシュ・フロー	19,538	9,184
引当金及び退職給付引当金の増減	△9,981	△5,008
運転資本の増減：		
一 棚卸資産の増減	△1,194	3,830
一 未成工事支出金の増減	△262	△319
一 売上債権及びその他の債権の増減	△550	1,105
一 仕入債務及びその他の債務の増減	3,465	△2,247
運転資本の増減	1,459	2,369
営業活動による現金生成額	11,016	6,545



## (m) 現金及び現金同等物

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)
現金及び現金同等物	83,472	43,346
銀行当座借越	△18,299	△18,549
現金及び現金同等物の期首残高	65,173	24,797
現金及び現金同等物	69,263	50,867
銀行当座借越	△15,756	△10,220
現金及び現金同等物の四半期末残高	53,507	40,647

## (n) 金融商品

## 経常的に公正価値で測定される資産及び負債に関する公正価値ヒエラルキー

レベル1：同一の金融資産及び負債について、活発な市場における（未調整の）市場価格があれば、当該市場価格

レベル2：直接的又は間接的に観察可能な、レベル1に含まれる市場価格以外のインプット

レベル3：市場価格に基づかない、観察不能なインプット

当第2四半期連結会計期間末（2013年9月30日）

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
売却可能金融資産				
英国国債	3,285	—	—	3,285
上場株式	148	—	—	148
非上場株式	—	—	3,017	3,017
その他の債券	457	—	—	457
その他	—	—	163	163
デリバティブ金融資産				
金利スワップ	—	95	—	95
為替予約	—	755	—	755
商品スワップ	—	1,576	—	1,576
デリバティブ金融負債				
金利スワップ	—	1,195	—	1,195
為替予約	—	965	—	965
商品スワップ	—	1,637	—	1,637

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>売却可能金融資産</b>				
英国国債	3,543	—	—	3,543
上場株式	143	—	—	143
非上場株式	—	—	3,144	3,144
その他の債券	415	—	—	415
その他	—	—	149	149
<b>デリバティブ金融資産</b>				
金利スワップ	—	101	—	101
為替予約	—	1,178	—	1,178
商品スワップ	—	2,251	—	2,251
<b>デリバティブ金融負債</b>				
金利スワップ	—	1,371	—	1,371
為替予約	—	923	—	923
商品スワップ	—	1,177	—	1,177

当第2四半期連結累計期間において、公正価値ヒエラルキーのレベル間の資産又は負債の振替はありません。

レベル2の金融資産及び金融負債は、デリバティブ金融資産及びデリバティブ金融負債です。デリバティブ金融資産及び金融負債の公正価値は、取引先金融機関等から提示された価格や期末日現在の市場価格に基づき算定しております。

レベル3の金融資産は、主として日本で保有されている非上場株式です。非上場株式の公正価値は、純資産価額や将来予想キャッシュ・フロー等を使用した評価技法を用いて算定しております。レベル3の金融資産の公正価値は、様々な要因により変動します。レベル3の金融資産が主として日本の事業会社によって発行された非上場株式であるため、日本経済に関する成長予測は、これらの金融資産の公正価値に影響を与える主要な要因となります。

公正価値ヒエラルキーにおいてレベル3に区分された売却可能金融資産の調整表は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
4月1日現在	3,293	184
取得	29	—
処分	△154	△41
公正価値ヒエラルキーの レベル2からレベル3への振替	—	3,107
公正価値ヒエラルキーの レベル3からレベル1への振替	—	△1
連結損益計算書で認識された評価損益	—	△6
為替換算差額	12	△14
9月30日現在	3,180	3,229

### 社債及び借入金の公正価値

当社グループの非流動の社債及び借入金の帳簿価額と公正価値は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2013年9月30日)		前連結会計年度末 (2013年3月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
銀行借入金	236,358	236,358	223,236	223,236
社債及びその他の借入金	62,924	60,179	62,463	57,986
リース債務	1,460	1,460	1,751	1,751
非支配持分に対する非持分 金融商品である優先株式	4,785	4,785	4,343	4,343
	305,527	302,782	291,793	287,316

当社グループでは、上の表に記載されたもの以外の資産及び負債の公正価値は、連結貸借対照表の帳簿価額に近似すると考えております。

(o) 偶発負債

(請求)

欧州競争法違反の疑いにより、2008年11月12日に欧州委員会が当社グループに対して過料を課する旨の決定を公表したことに続き、当社グループは、顧客である自動車メーカー数社より、損害賠償請求の意図がある旨の通知を受領しました。当社グループは、このような請求に対しては抗弁を行う意向であり、また欧州委員会による過料の決定自体についても控訴を継続中であります。当社グループでは、これらの損害賠償請求のうちいくつかの案件について、それらの解決により予想される財務上の影響及び抗弁にかかる費用に備えるため、支出の可能性のある金額を見積り引当金として計上しております。また、これら以外の案件については、当第2四半期連結会計期間末において請求の結果を予測することは時期尚早であり、現時点ではこれらの請求が将来の経済的便益の流出に至るとは見込まれておりません。

(p) 企業結合

当第2四半期連結累計期間において、重要な企業結合はありません。

前第2四半期連結累計期間において、以下の企業結合を行っております。

(Flovetro SpA社の取得)

当社グループは、2012年4月2日付けで、Flovetro SpAの株式のうち従来保有していなかった50%分の株式の取得取引を完了しました。同社は、これまでは当社グループが50%の持分を保有するジョイント・ベンチャーでした。同社は、当社グループの欧州自動車用ガラス事業に対してガラス製品を供給するフロートガラスの製造会社であります。

この株式の取得に関する契約条項に従い、当社グループは、従来同社のジョイント・ベンチャー・パートナーであったサンゴバン社に対して、現金対価として407百万円を支払いました。また、取得日時点における同社に対する既存のジョイント・ベンチャーの資本持分の帳簿価額は407百万円であり、当社グループはこの持分に対する再測定を行い、再測定益94百万円を認識いたしました。この結果、移転された対価と従来保有していた被取得企業の資本持分の取得日における公正価値の合計は、908百万円となりました。

取得した資産及び引き受けた負債の公正価値は、有形固定資産3,216百万円、棚卸資産724百万円、売上債権及びその他の債権1,556百万円、社債及び借入金3,452百万円（当座借越812百万円を含む）、仕入債務及びその他の債務874百万円、並びにその他の負債（純額）169百万円でした。この結果、被取得企業の資本持分の取得日における公正価値は合計1,001百万円となりました。

以上より、この取得取引から発生する負ののれん93百万円を収益として認識しました。前述のジョイント・ベンチャーの資本持分の再測定益と合わせて、前連結会計年度の連結損益計算書において、個別開示項目として合計187百万円の収益を認識いたしました。

なお、IFRS第3号「企業結合」において認められている通り、前連結会計年度末において、この企業結合取引によって取得した資産と負債の公正価値の見直しを行いました。上記の金額は、この見直しを行った結果を反映しており、前第2四半期連結累計期間において個別開示項目として計上した、子会社の取得による収益の金額とは異なっております。

(q) 前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報の修正

注記（5）（c）「重要な会計方針」に記載の通り、当社グループは、IAS第19号「従業員給付」の改訂の適用を受けて、比較情報の修正を行っております。この改訂の適用による、前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報の修正額、及び当連結会計年度（2014年3月期）の連結財務諸表における影響の実績額又は概算額は、以下の表の通りです。

（単位：百万円）

	当連結会計年度 （自2013年4月1日 至2014年3月31日）	前連結会計年度 （自2012年4月1日 至2013年3月31日）
4月1日現在		
親会社の所有者に帰属する持分合計の変動	—	—
資本合計の変動	—	—
9月30日現在		
金融費用の増加	1,361	1,014
税引前四半期損失の増加	1,361	1,014
法人所得税の減少	308	256
四半期損失の増加	1,053	758
四半期包括利益合計の減少	1,053	758
退職給付引当金の増加	1,361	1,014
繰延税金資産の増加	308	256
親会社の所有者に帰属する持分合計の減少	1,053	758
資本合計の減少	1,053	758
基本的1株当たり四半期損失の増加（円）	1.17	0.84
希薄化後1株当たり四半期損失の増加（円）	1.17	0.84
3月31日現在		
金融費用の増加	2,722	2,028
税引前損失の増加	2,722	2,028
法人所得税の減少	616	512
当期損失の増加	2,105	1,516
連結包括利益計算書における退職給付引当金の 数理差異調整（法人所得税控除後）の減少	2,105	1,516
当期包括利益合計の変動	—	—
親会社の所有者に帰属する持分合計の変動	—	—
資本合計の変動	—	—
基本的1株当たり当期損失の増加（円）	2.33	1.68
希薄化後1株当たり当期損失の増加（円）	2.33	1.68

(r) 重要な後発事象

2013年11月7日付けで、当社グループは英国セントヘレンズのコーリーヒル事業所所在のフロートラインを休止することを公表しました。これにより、当社グループの欧州における建築用ガラス事業の設備稼働率の更なる向上が見込まれます。

当フロートラインの休止に伴い、当年度において27億円の費用が発生するものと見込んでおります。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2013年11月8日

日本板硝子株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大木 一也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高田 慎司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本板硝子株式会社の2013年4月1日から2014年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2013年7月1日から2013年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結貸借対照表、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本板硝子株式会社及び連結子会社の2013年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長兼CEO 吉川 恵治
【最高財務責任者の役職氏名】	代表執行役副社長兼CFO マーク・ライオンズ
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表執行役社長兼CEO吉川恵治及び当社最高財務責任者である代表執行役副社長兼CFOマーク・ライオンズは、当社の第148期第2四半期（自平成25年7月1日 至平成25年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

## 2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。